



おすすめの一冊

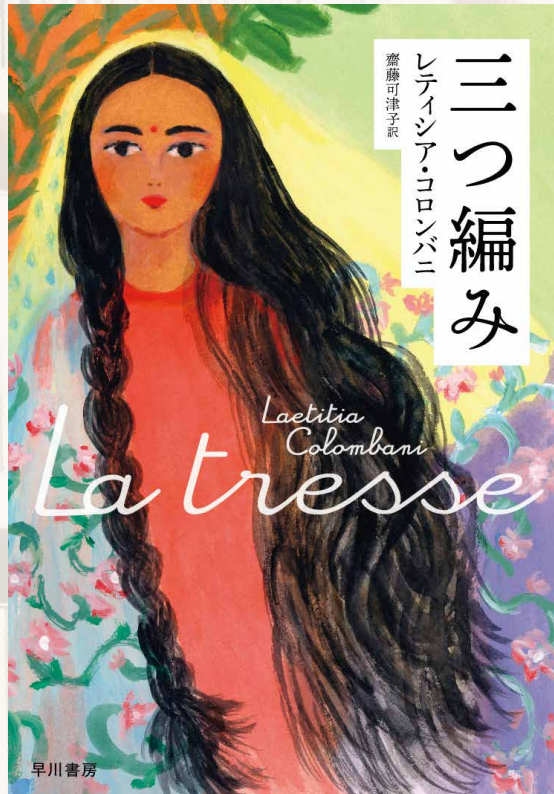
レティシア・コロンバニ『三つ編み』

フランス語で書かれたこの物語は、すでに32の言語で翻訳が決定し、フランス国内のみならず、外国においても高い評価を得ています。

物語は、「髪」を通して社会も文化も大きく異なる3人の女性たちのきずなを語っています。インド、イタリアそしてカナダの3人の女性たちが自らの道を切り拓く。その3人の人生がタイトルのごとく三つ編みのように絡み合っています。

一人目のインドのダリット（不可触民）に生まれたスマタは、娘を学校に通わせ、悲惨な生活から抜け出させたいと力を尽くすのですが、すべての望みを断ち切られ、娘とともに巡礼者となりました。そして唯一の持ち物である髪を捧げることで神の庇護をもって、娘とともに新しい人生を切り拓こうとします。

二人目のジュリアはイタリア（シチリア）の家族経営の毛髪加工会社で働く女性です。ジュリアは、経営者であ



『三つ編み』
レティシア・コロンバニ 著
齋藤可津子 訳
早川書房

る父を突然の事故で亡くします。そして自らが引き継ぐ会社が倒産寸前であり、しかも伝統であるイタリア人の髪が手に入らない状態であることを知ります。会社を閉じるか、他の国から髪を輸入して仕事を続けるかの選択を迫られ、従業員の意見も聞きながら初めてインド人の髪を輸入し、かつらを作るのです。

そして三人目は、カナダのシングル

マザーであり、3人の子どもを育てながら弁護士として活躍しているサラです。サラは弁護士事務所の女性として初めてトップの座に手が届く直前に乳がんの告知を受け、治療を受けながら人生の再構築を迫られます。

簡単な3人の女性の紹介でおわかりのように、これはスマタが神に捧げた髪がジュリアのもとで美しいかつらになり、それをがん治療により髪がなく

なったサラが使うという物語になっています。その物語を通じて語られるものは、生活や伝統・文化、そして価値観が違う中で、3人の女性がそれぞれの運命と闘いながら、「自分」を探していく不屈の精神であり、強靱でありながら柔らかい意志のありようなのです。

結びに代えて、私が好きなこの本の終わりの部分を引用させていただきます。

つるりとした頭に、教えられたようにかつらをかぶせ、自分のものとなった髪をととのえる。へへ中略へへサロンをあとにしなから、サラは世界の果て、インドで髪を捧げた女性を思い、それを辛抱づよくときほぐし、加工処理したシチリアの女性たちを思う。へへ中略へへ「ひとつの命を救う者は、みんなを救う」。いまみんなに救われ、サラはみんなにありがとうと言いたい。自分はここにいます。これからここにいます。

石井澄江

いしい すみえ

東京生まれ。公益財団法人ジョイセフ代表理事・理事長。ジョイセフにおいて長く開発途上国の母子保健、家族計画を含むセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖にかかわる健康）の推進に携わる。